海とともに

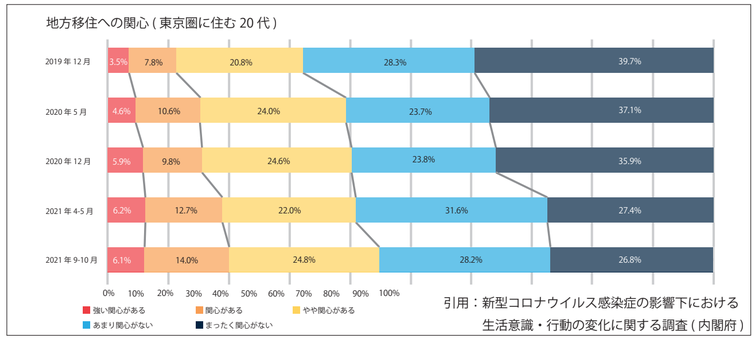
- 地域にふれる仮暮らし -

01. 背景 - 海に行けばみんなに会える -

サーフィンは単なるスポーツではなく、人生観や生き方を変えてしまうほどの魅力がある。私も、その自由な価値観やカルチャーに魅了され、毎朝海に通う生活をしている。いつもの海に向かうと、誰かしらがそこにいる。わざわざ会いに行かなくても、海に行けばみんなに会える。その偶然に出会えるというところはサーフィンの魅力の一つだと思う。波がある場所には人が集まって、そのポイントに行くだけでコミュニケーションが取れたり新しい出会いが生まれたりする。このような空間を建築でも表現できるのではないかと思い、卒業設計のテーマとして扱おう考えた。さまざまなライフスタイルやそれぞれの個性がある中で、サーファーとしてのライフスタイルや考え方などを多くに人に知ってもらうきっかけになればいいなと思う。異なる年齢層の人やそれぞれ違う趣味を持った人たちが集い、交流が生まれる。住む場所も違えば生活のスタイルも全く違う人たちがそれぞれの価値観やアイデアを理解し、認めることができる。そんな空間を建築という方法で作り出すことを試みた作品設計である。

02. 社会背景 - コロナ禍を経て拡大した地方暮らしへの関心 -

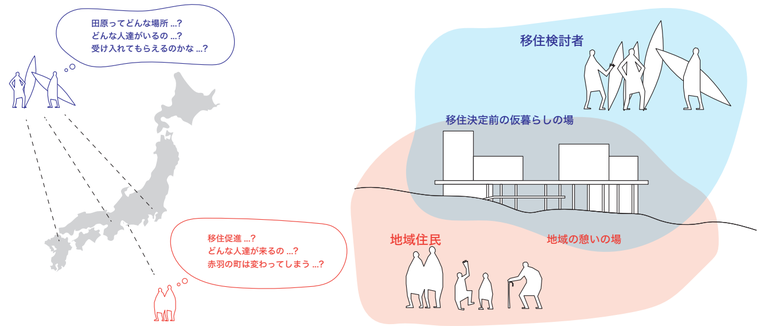
新型コロナウイルスの感染拡大によりテレワークを積極的に活用する企業が増加したことで、自宅やシェアオフィスを含めさまざまな場所で働くことが可能になった。また、感染拡大の対応策としてテレワークの導入が促進されたが、永続的にテレワークの導入を決めている企業も少なくない。テレワークに完全移行するなかで、都市部に住居を構えていたオフィスワーカーの地方移住が注目されるようになった。内閣府が発表している「新型コロナウイルス感染症の影響下における生活意識・行動の変化に関する調査 (2021 年 9-10 月)」によると、東京圏に住む 20 代の約半数が地方移住に肯定的という結果が示されている。また、地方移住に関心を持つ層が増加しているなかで、積極的に移住支援・推進を行う地方自治体も増加している。東京圏への一点集中是正や地域の活性化につなげるためにも、都心から地方への人の流れを支援する動きが広まっている。



引用：新型コロナウイルス感染症の影響下における生活意識・行動の変化に関する調査 (内閣府)

03. 提案 - 移住者たちの不安を解かす場所と時間 -

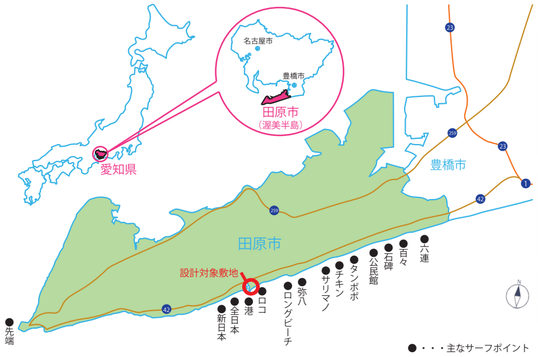
地方への移住に関心を持った理由は、自然豊かな土地への魅力や働き方や暮らし方の変化などが挙げられるが、それと同時に移住先での人間関係に不安を抱いている。買い物や公共交通、医療・福祉施設等の情報に関しては自身で調べることで情報を得ることができるが、その地域の雰囲気やコミュニティの活動など、実際に住んでみなければわからないことがたくさんある。逆に、地域住民は他県や他地域から見ず知らずの人達がやってくることに対して不安を抱くだろう。地域住民も移住者も互いに不安を抱いた状況では、良好な関係を築くことは難しい。そのため、それぞれの生活や価値観を理解し、共有する空間が必要であると考えた。多種多様な活動が同じ場所で行われることによって、互いの存在を知ることから始まり、そこから他のアクティビティへ興味を持ったり、新たなコミュニティが生まれたりするきっかけとなる場所を提案する。

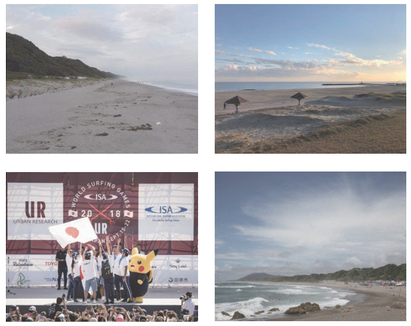


04. 敷地 - サーファーの町、愛知県田原市赤羽根町西 -

田原市の概況

田原市は、愛知県の最南端の渥美半島に位置し、東側は中核市である豊橋市に接している。渥美半島は、中央部を赤石山脈の末端が走っており、山と川が入り組む起伏に富んだ地形となっている。赤羽根地域は、太平洋ロングビーチやロコポイントをはじめ、サーフィンの世界大会や全日本の大会などが開催されている国内有数のサーフポイントがあり、一年を通じて安定した波が打ち寄せることから、県外からも多くのサーファーが訪れている。





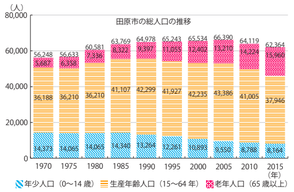
●・・・主なサーフポイント

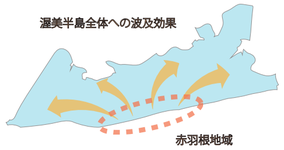
引用：田原市 HP ワールドサーフィンゲームス メモリアルページ

田原市サーフタウン構想

田原市は赤羽根地域を中心に、サーファーをはじめとする若者・子育て世代の移住数を増加させる施策等を進めることで、赤羽根地域の活力維持・拡大を図り、赤羽根地域だけでなく田原市全域へと波及させ、持続的なまちづくりの発展へとつなげることを目指す取り組みを行っている。

田原市サーフタウンの構想の展開は、サーフィンを活用した様々な施策を実施することにより交流人口拡大を図り、サーフィンによる経済効果「サーフォノミクス」を高めつつ、定住・移住促進を目指している。





サーフタウン構想でのゾーン別将来像

A　観光拠点ゾーン：「道の駅赤羽根ロコステーション周辺」
　　観光案内や飲食機能を持つサーファーや観光客の観光拠点

B　住居誘導ゾーン：「赤羽根町及び新笹周辺」
　　定住・移住の促進エリア

C　自然交流ゾーン：「ロコパーク」
　　海が目の前に広がる憩いと交流の場

⇨　3 つのゾーンが赤羽根西周辺に集中している

引用：田原市サーフタウン構想 ～戦略プラン～

公園と運動場に挟まれた道

公園

運動場

ゲートボール場

海へ続く道

井戸端会議の場

①赤羽根漁港

②道の駅あかばねロコステーション

③駐車場

④港側釣りスポット

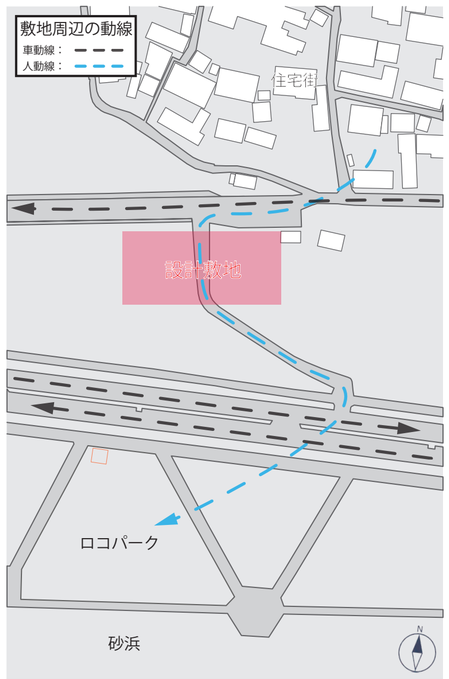
⑤休憩所

⑥あかばねロコパーク

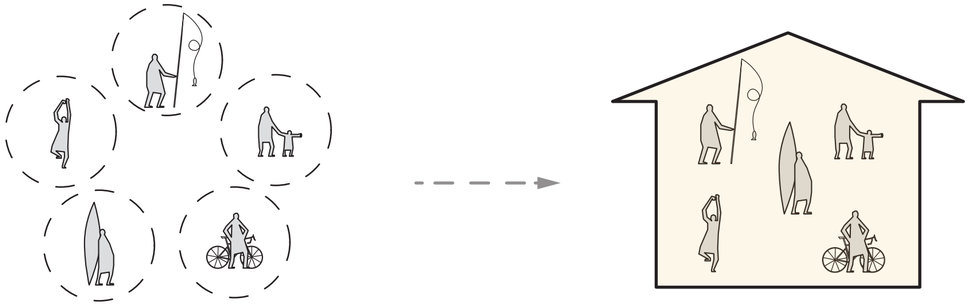
⑦堤防側釣りスポット

⑧ロコポイント

⑨広場



05. コンセプト - ポテンシャルの高い土地を包括する建築 -

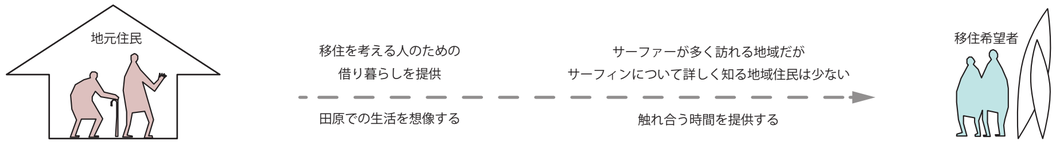


それぞれが独立したアクティビティ
それぞれの人々は互いに干渉することはなく各々が楽しんでいる

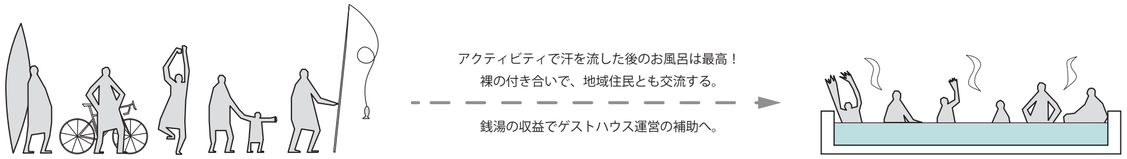
サーフィンを中心としたプログラムと建築（空間）によって
地域利用者の交流促進と地域活性化を目指す

06. プログラム - 三つの機能を持つ建築 -

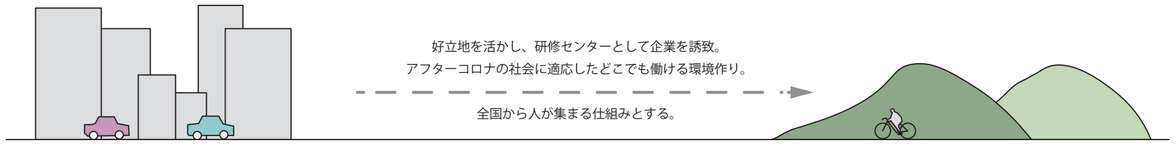
プログラム①: サーファーが営む「ゲストハウス」



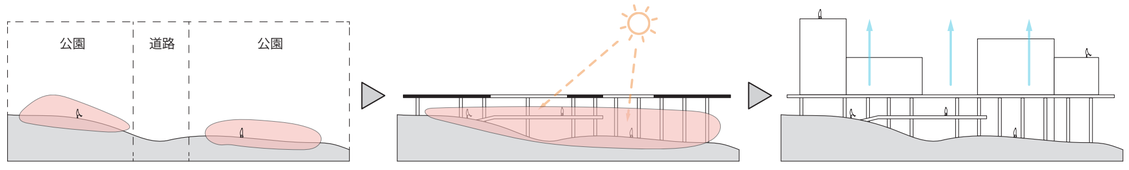
プログラム②: 全アクティビティに共通する「癒やしの銭湯」



プログラム③: 自然溢れる好立地を生かした「研修センター」



07. デザインアプローチ - 既存の機能を残す建築 -



STEP1
道路を挟んだ公園

STEP2
公園の機能を損なわないように
２つの公園をつなげるように
高さ 7m のピロティ空間を創出

STEP3
波チェックのため
ボリュームを重ね高さを出す

08. 構成ダイアグラム - 各階の機能と利用者 -

6F：宿泊室
利用者：宿泊客

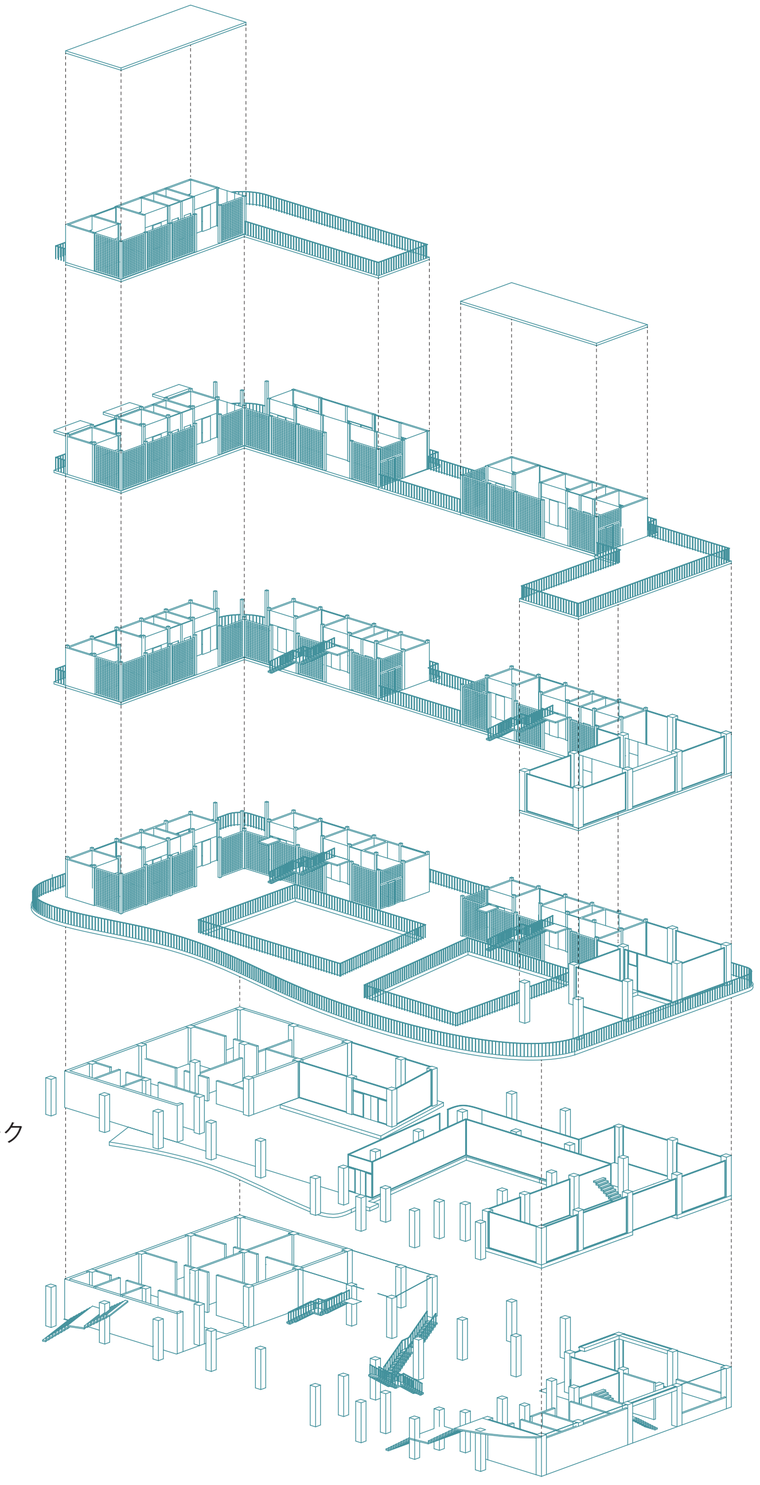
5F：宿泊室・展望室
利用者：宿泊客

4F：宿泊室・研修室
利用者：宿泊客
　　企業社員

3F：宿泊室・研修室
　　屋外テラス
利用者：宿泊客
　　企業社員

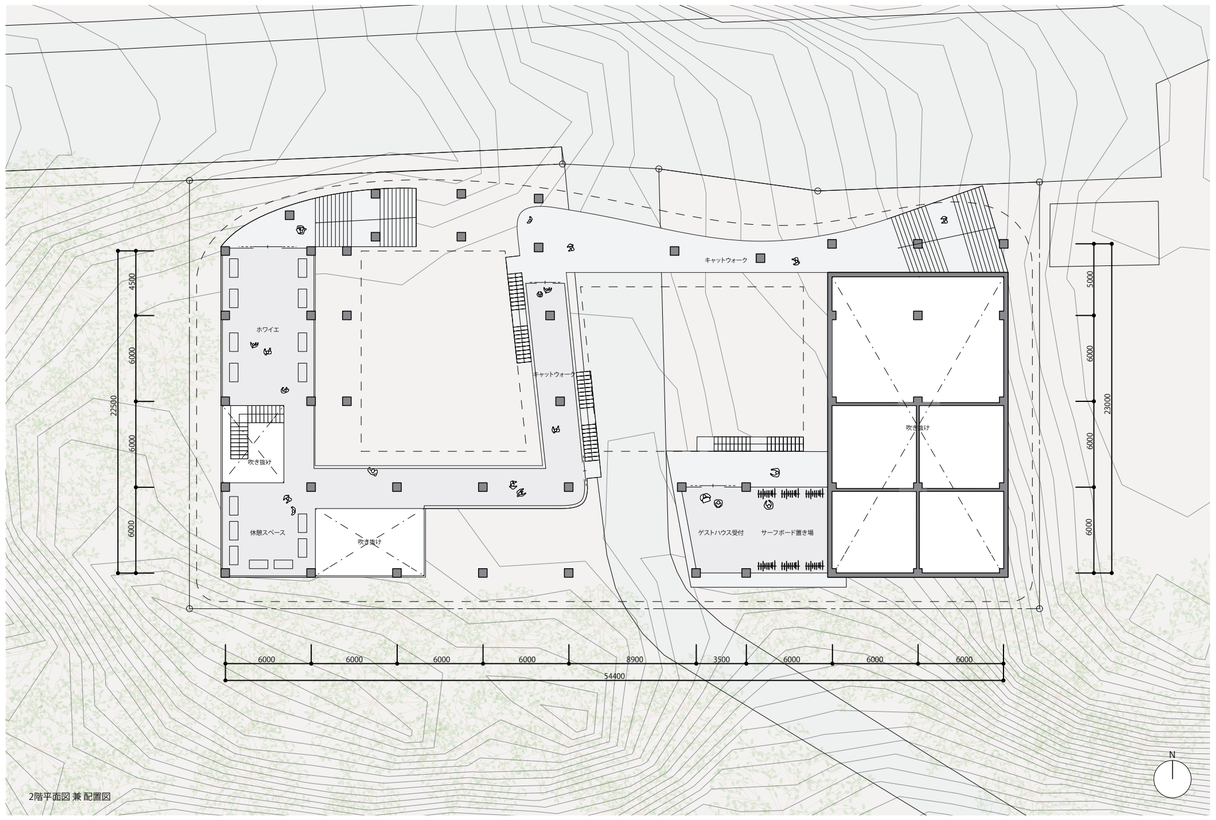
2F：ゲストハウス受付
　　ホワイエ・キャットウォーク
利用者：制限なし

1F：広場・銭湯・食堂
利用者：制限なし

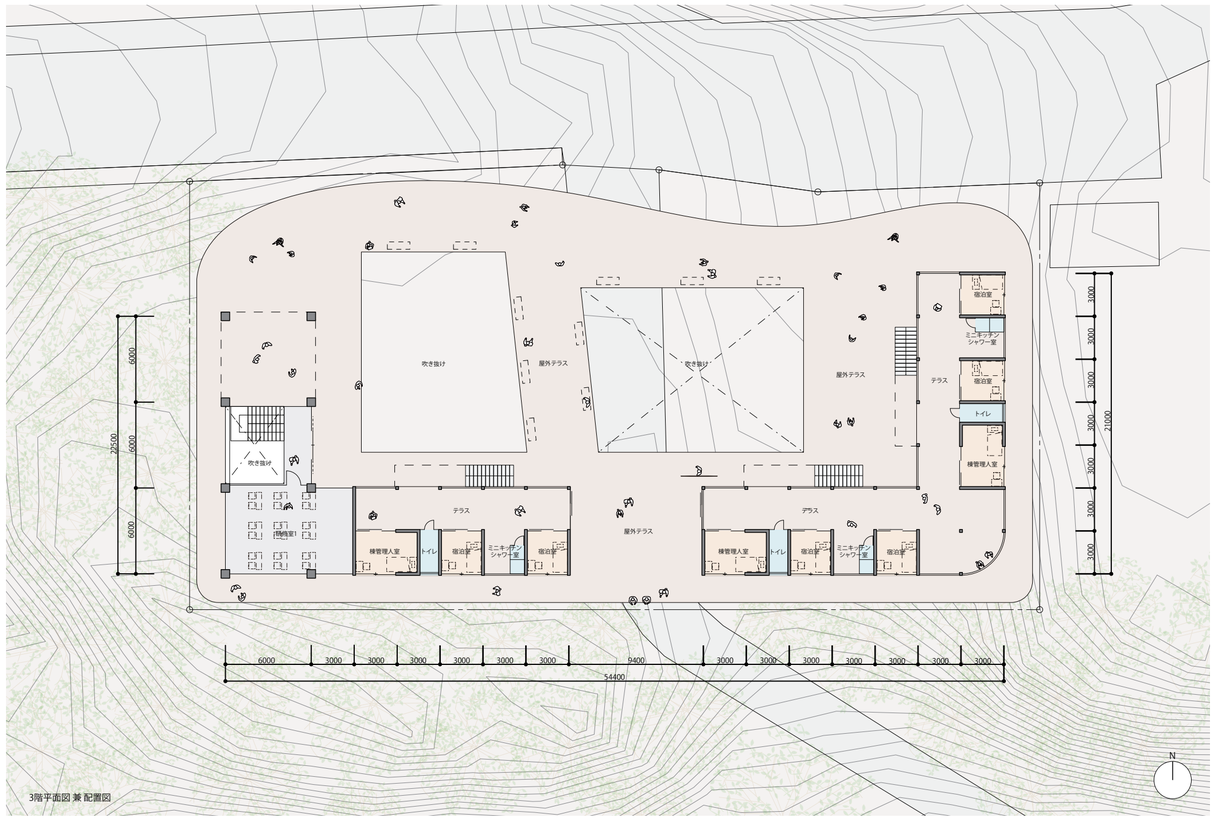


09. 平面・配置計画

1階平面図 兼 配置図



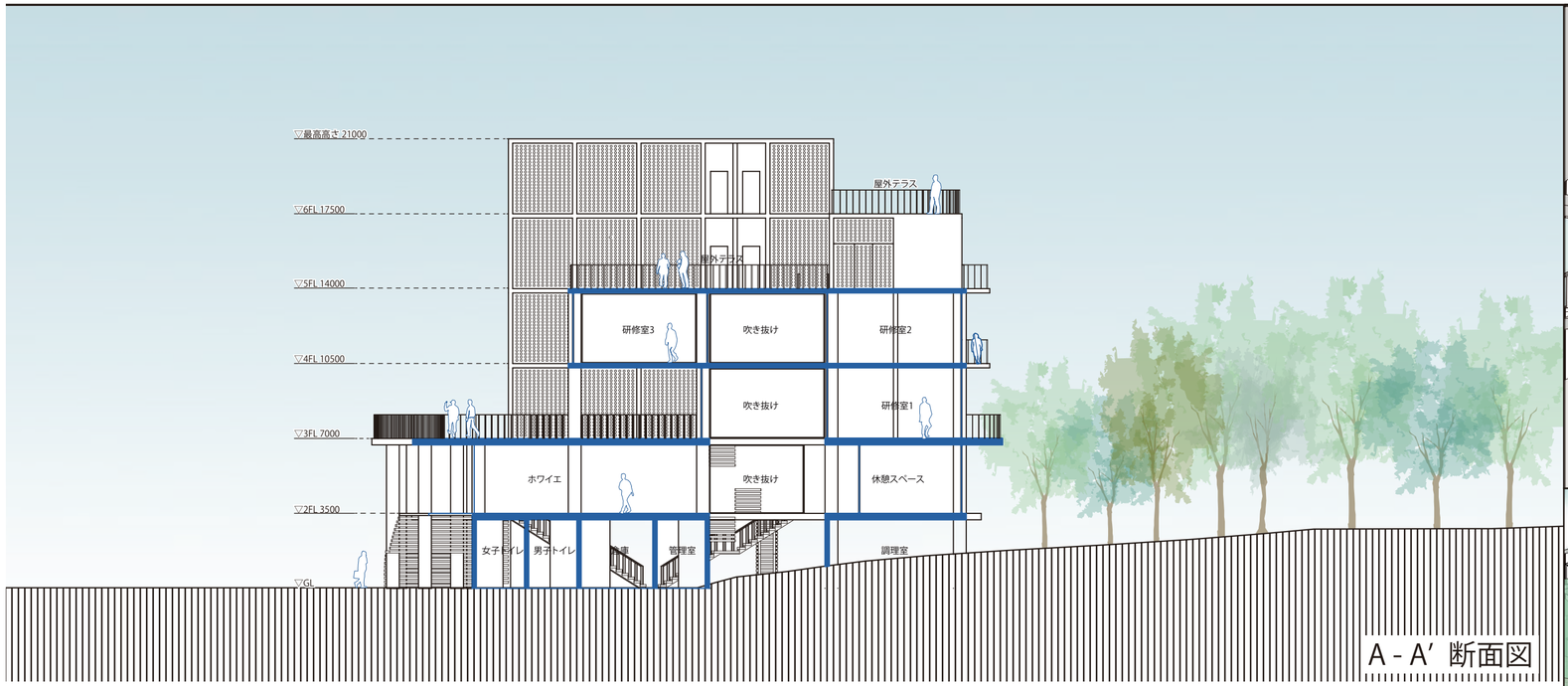
2階平面図 兼 配置図



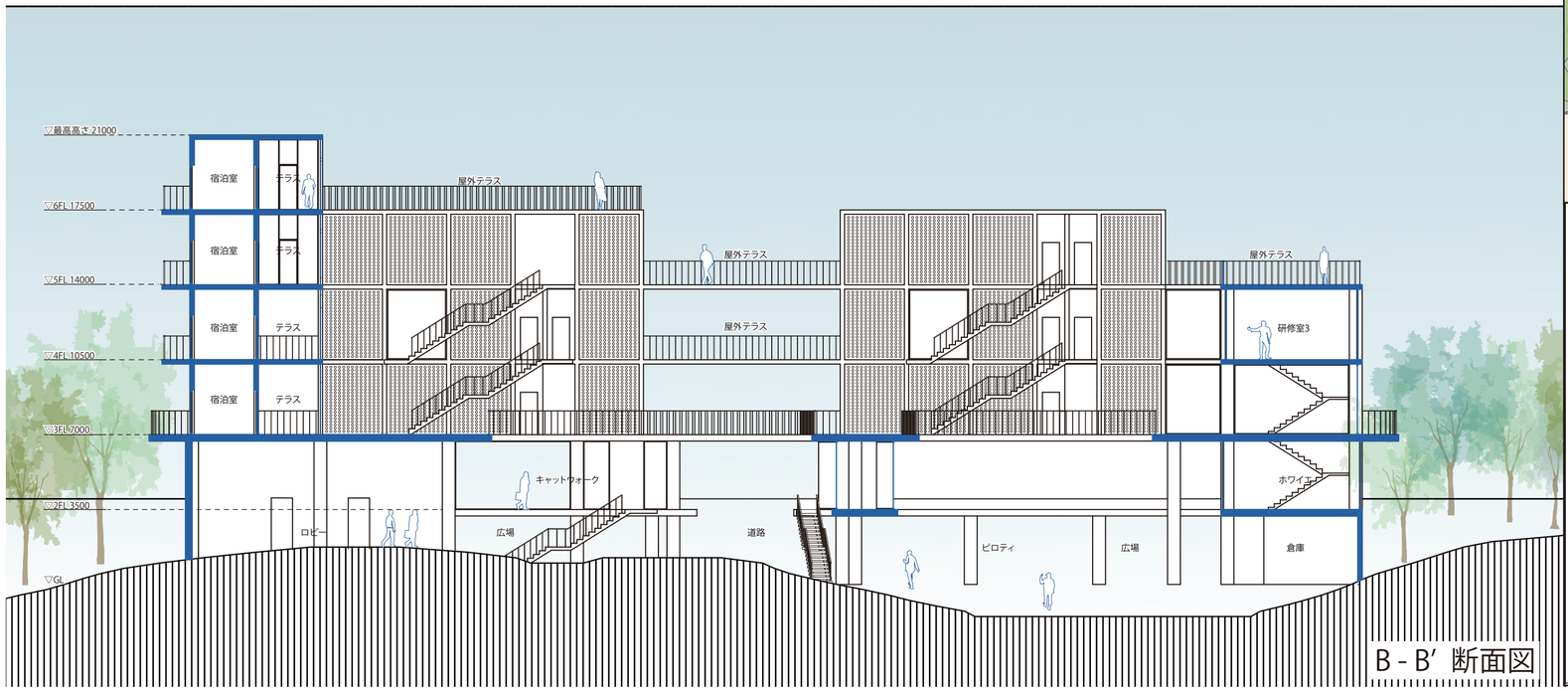
3階平面図 兼 配置図

4階平面図 兼 配置図

10. 断面計画

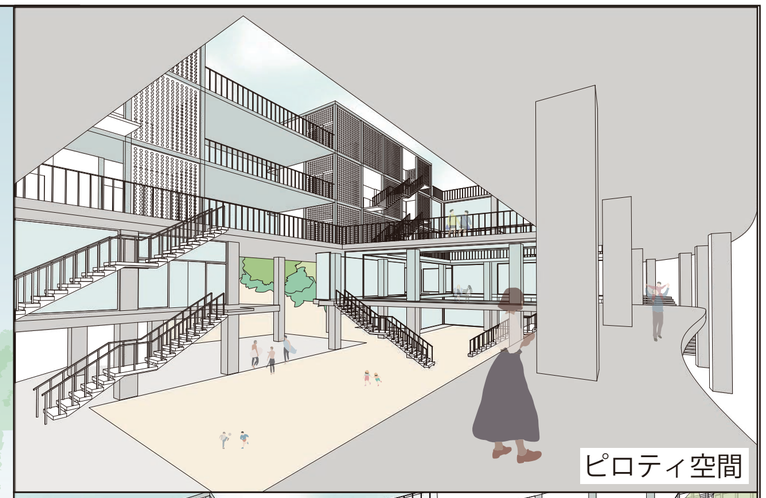


A - A′ 断面図



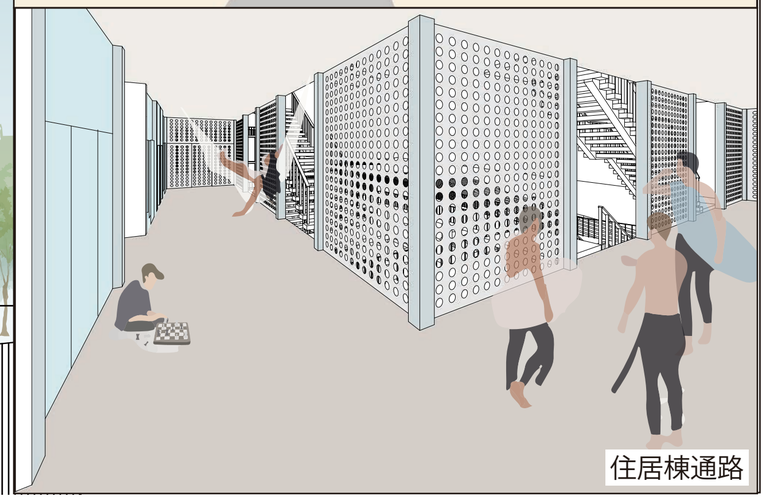
B - B′ 断面図

11. パース



ピロティ空間

中央通路



住居棟通路